

2020 年度 関西大学総合情報学部  
スポーツ・フロンティア入学試験問題

小論文

注意事項

- 試験時間は 90 分です。
- あなたの受験番号を下記欄に記入してください。
- 解答はすべて、解答用紙に記入してください。
- ※欄は記入しないでください。

受験番号					
------	--	--	--	--	--

次の文章と図表を見て、3つの問いに答えなさい。

### 落合／「日本はなぜ変わらなければならないのか」

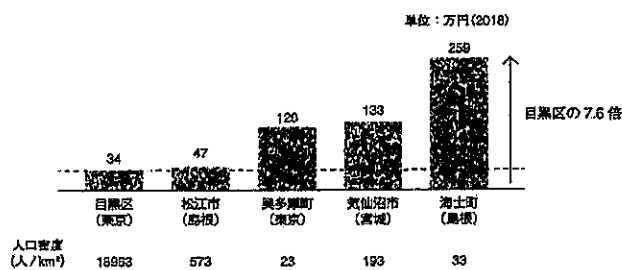
次に「地方への公費投入」の話をしたと思います。引き続き安宅さんの資料から紹介しますが、①現在地方の基礎自治体（市、町、村、特別区）への公費投入は地方と都市部とではものすごい差があります。例えば自治体予算を一人あたりで見ると、目黒区民一人あたりに比べ、<sup>あまちょう</sup>島根県海士町では200万円以上のお金がかけてられています。目黒区民には34万円しかあげません、でも海士町の人には259万円あげますと言われたら普通すごく不公平を感じておかしいという話になります。でも実際にはそれに近いことが行われています。

もちろん地方がずるをしているわけでもなんでもなく、これだけお金を渡さないと地方の自治体は回らないというのが実情です。でも僕たちが考えるべきはそもそもこの状況でいいのか、ということです。

ではどうするべきか。大きく2つの解決策があります。

一つは自治体の収入を増やす、すなわち生産力を高めて、国からの支援が手薄になっても自活できる産業を育成するという方法です。

一人あたりの自治体予算



「平成最後の夏期講習」ヤフー株式会社CSO安宅和人氏による資料  
『我が国の未来に向けたリソース投下の現状と課題』  
(基礎自治体の多くはbasic income級の公費投入でようやく回っている状況)より引用。  
(各自治体の開示資料から安宅氏が独自に分析を加えたもの)  
一人あたりの生活維持に必要な公費に大きな差が生まれている。

人口密度が低いということは広大な地場資源があるということ。農業における担い手の高齢化や転出に伴う耕作放棄地問題。だいたいは規制が弛んできているので、規模集約化して生産性を上げる農業法人もこれからたくさん出てくるでしょう。もちろん農地改革は当時はきわめて妥当な政策で、事実日本の成長に寄与しました。けれども、これらの戦後改革の多くにはほころびが見られます。人口増を見越した成長社会を前提にして築かれたルール自体を僕たちは見直さなければなりません。

あるいは企業でも地場を求めるものはいくつもあります。

例えばAIによる自動運転の実証実験は、離島や山間地域のほうが都合がいい。なぜならば人がいないことで、死亡事故という決定的なリスクを減らすことができるからです。

もう一つは支出を減らす。端的に言えば、人を減らすことです。

山間部から都市部へ移住してもらおう。例えばコンパクトシティ化を進め、限界集落から移住を進めてもらえば、その分のインフラコストを削減することが可能です。

電子市民制度という方法もあります。電子市民制度はすでにエストニアで実装されていま

す。実際に住んでいなくてもかまわない。オンラインを通じて登録し、そこの市民として納税の義務を負えば、さまざまな権利を得る制度です。近い将来、地方からの撤退は選択肢の一つにならざるを得なくなります。とはいえ、もはや町としては存在しなくなったとしても、バーチャル世界には故郷の風景がきちんと残されている、というような未来もありうるでしょう。

こうした議論をするなかで出てくるのは、「いま住んでいる人の気持ちはどうなんだ」ということです。もちろん、いま住んでいる人たちや現場の声を尊重するのは不可欠です。ただし、絶対視していたら改革はできません。それは極論を言えば既得権益の肯定でしかなく、むしろ未来の人たちの機会を奪うことにつながります。

現実問題として「この自治体を閉鎖して移住しましょう」という公約を首長が掲げて当選することなんて絶対にできないでしょう。その力学の延長線にあるのが高齢者優位の政策立案であり、いまの日本社会の苦境です。いま暮らしている人たちを尊重するのは当然のことですが、同時に全体のリソースを考えて行動する。そしてそれを戦略として決める人がこれからの地方には求められます。

ある外国人の研究者の友人に、日本の人口ピラミッドを指して「よく日本人はあんな棺桶かんおけみたいなグラフで危機感を抱かないね」と言われたことがあります。棺桶というのはほんとうに言い得て妙です。僕たちは日本がいま棺桶に入りつつあるという状況を直視しなければならないのです。

【問 1】

下線部①で述べられている日本の問題について、文中ではどのような解決策が述べられているか。150 字以内でまとめなさい。

【問 2】

文中で述べられている日本が抱える問題に対して、情報技術を用いることで、どのような解決策が考えられるか。あなたが考える情報技術を用いた解決策を 500 字以内で一つ述べなさい。

【問 3】

文中にあるグラフの「一人あたりの自治体予算」と「人口密度」の数値から、目黒区と海士町の総予算額（表中の（ア）と（イ）の値）を求めよ。単位は [千万円] とし、小数点以下を四捨五入して答えよ。なお、各自治体の面積の値は、表中に記した値を用いること。

表 自治体の総予算額の計算

	目黒区	松江市	奥多摩町	気仙沼市	海士町
一人あたりの自治体予算 [万円]	34	47	120	133	259
人口密度 [人/km <sup>2</sup> ]	18963	573	23	193	33
自治体の面積 [km <sup>2</sup> ] ※	14. 67	572. 99	225. 53	332. 44	33. 44
総予算額 [千万円]	(ア)	15431	622	8533	(イ)

※出典：国土地理院ウェブサイト『平成 30 年全国都道府県市区町村別面積調』から引用  
(<https://www.gsi.go.jp/KOKUJYOHO/MENCHO/backnumber/GSI-menseki20181001.pdf>)

以 上